

Ⅳ-128

地方駅における自動車駐車実態

- 茨城県内のJR常磐線を対象として -

八千代エンジニアリング株式会社 正会員 鈴木 達也
 茨城大学 正会員 金 利昭
 茨城大学 正会員 山形 耕一

1. はじめに

地方都市の駅前広場は、従来は公共交通機関相互の結接機能を中心として計画・設計されてきたために、多様な自家用車の乗り入れにより施設機能が混乱している場合がみられる。また、新しく整備された駅前広場の中にも一般車の利用を十分考慮していない場合がある。一方、地方駅では独自の工夫も多々見受けられ、たとえばロータリー形式の駅広になっているために、駅前地区の自動車交通処理がスムーズに行われている場合もある。

地方都市の駅前地区を「まちの顔」とするためには、大都市の駅前地区とは大きく交通特性が異なることを考えて、地方都市の特徴に適合した施設のあり方と利用方法を検討していく必要がある。

本研究は、地方都市の駅前地区のあり方を考えていくために、今回は自動車の駅前利用実態を調査し、今後の検討事項を考察したものである。

2. 実態調査結果と考察

(1) 短時間無料駐車場

駅広を利用する人は、駅利用者のみとは限らない。そのため、一般車駐車場の不足による他の交通施設への進入・妨害など様々な問題が起きている。そこで、駅前駐車場の利用目的、駐車時間を調査し、駅広における駐車場について考察した。

- ・10分未満は全体の60%、20分未満は80%であることから、料金無料内での短時間駐車が多いことがわかる(図2)。
- ・したがって、短時間無料の駐車場がある程度数あると便利であることがわかる。

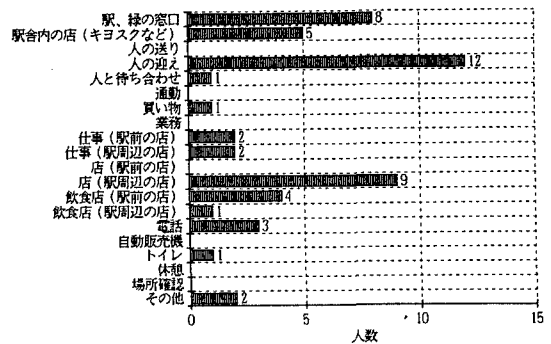


図1 駐車場利用目的

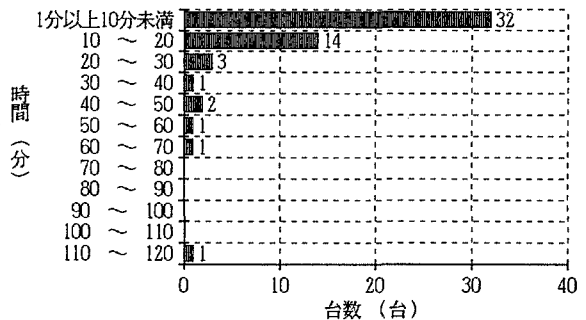


図2 駐車場利用時間

調査駅	大甕駅 8台分
調査方法	進入時、退場時の時間測定 利用目的のヒアリング
調査日	H6. 2. 9 (晴)
調査時間	AM10:00~PM2:00

【結果と考察】

- ・料金は、20分無料、35分毎に100円。
- ・駐車場は、駅の利用者の他に周辺店舗の利用目的者も多く、その割合は約半々である。(図1)

(2) バススペース

地方駅では、バスの本数は少ないが施設は広く取られている。その理由として、バス停とバス待機駐車場の両方を兼ねているためと考えられる。これは、駅前空間の効率的利用という点から問題があるうえに、景観上も好ましいとは言えない。そこで、バス施設のあり方と利用方法について考え直すことも必

要と思われる。

調 査 駅	友部駅
調査方法	バスの駐車時間を測定
調 査 日	H6. 2. 9 （晴－雨(4:20)）
調査時間	7:00～9:00, 10:00～11:00, 13:00～14:00, 16:00～17:00

【結果と考察】

- ・バスの駐車時間は、10分以上15分未満が最も多く、全体の37%を占め、1分以上20分未満は全体の82%を占めている。（図3）
 - ・常に、2～4台のバスが駐車している。（図4）
- ※（図4）は調査結果の一部である。
- ・バス駐車スペースを駅広外へ設け、時間調整は、そこで行うことが考えられる。

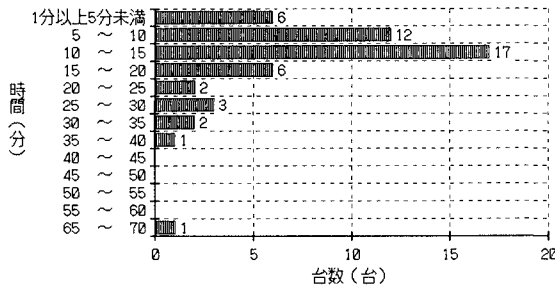


図3 バス駐車時間

※ — はバス一台分の駐車時間帯を表す。

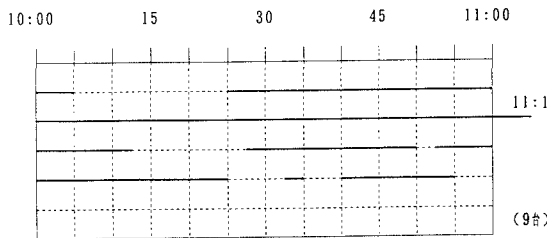


図4 バス駐車台数

（3）タクシースペース

駅広内におけるタクシープールの占める面積割合は高いが、その役割はタクシー駐車場としてのみであり、ほとんど他の目的に利用されていないのが現状である。特に朝のピーク時には、利用されていないスペースとなっている。そこで、タクシープール

の今後のあり方について考える必要があると思われる。

調 査 駅	常陸多賀駅
調査方法	15分間ずつの利用者数 15分おきの駐車台数
調 査 日	H6. 2. 9 （晴－雨(4:20)）
調査時間	7:00～9:00, 10:00～11:00 13:00～14:00, 16:00～17:00

【結果と考察】

- ・駐車スペースは16台である。
- ・朝は利用者数、駐車台数ともに少ないが、ほとんどの時間帯で、駐車台数の方が多い。
- ・7時から8時の利用台数は15台であるのに対し、K&Rは107台あり、整備されている施設と利用のギャップが著しい。
- ・現地調査によれば、昼間はタクシーが目立ち、タクシーのための駅広といった印象を受ける駅が多い。
- ・よって、タクシープールを駅広外へ設けることが考えられる。なお、周辺の細い道路をプールとしている駅もある（蔵前・神保町）。
- ・タクシープールの時間差利用が考えられる。この場合、他の交通手段も利用できるように開放的な構造とする必要がある。

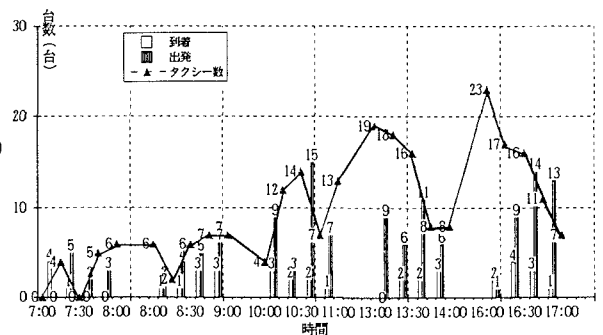


図5 タクシーの利用者数と駐車台数

3. おわりに

地方駅の駅前地区のあり方を考えていくために、今回は、一般車、バス、タクシーの駐車実態から施設と運用についての課題を考察した。